

「大学」研究室が「高校」にやってきた！ “水の表面張力の不思議さ、理科の面白さを体験しました”

(平成23年3月22日、本校にて)



京都工芸繊維大学の塩野剛司准教授ら3名の大学教員、大学院生を本校に招き、「**京都工芸繊維大学デリバリーキャンパス(体験授業)**」を開催しました。本校1・2年の理系進学希望者が小グループにわかれ、小グループ毎に大学教員、大学院生が付き、身近な現象に関連した実験をおこないました。その実験の「結果」や予測される「現象」について討論を深めました。

マーブル染めに挑戦()

「この変化に注目！」()

生徒の感想(一部抜粋)

普段できないような体験をさせていただいてとても興味が湧いた。大学の先生がおっしゃっておられた「自分で考える」というのは本当に大切だけど難しいことだなと思った。「自分で考える」、今の自分に欠けていると思うのでこういう力をつけられるように頑張りたい。



今回の実験は「疑問を持ち、それは何故なのか」を考えながら行うというもので、このようなやり方は初めてだったので戸惑うこともありましたが、実験の本質というものが少しわかったと思います。



毎日新聞(京都・丹後丹波版)(平成23年3月23日付)に掲載されました。